

## 自分の道は自分で決めよう！ ～新型コロナ禍の合唱活動再開に向けて～ 芦屋合唱協会の取り組み

芦屋合唱協会会長 合唱指揮者 西牧 潤

兵庫県芦屋市は大阪と神戸の中間に位置し、古くからベッドタウンとして知られています。人口十万人にも満たない小さな街に30近くの合唱団があり、それぞれに個性的な活動をしています。

新型コロナウイルスの蔓延による影響を受け、3月には多くの合唱団が練習で利用している公民館が閉鎖となり、公民館がオープンとなった5月下旬にも合唱に関しては使用禁止が続いていました。

それも時間の問題となり、近隣の市とともに公民館に歌声が戻ってくる日が近いことを感じるようになってきましたが、それでも芦屋市を活動の拠点として活動している合唱団の多くは、その活動再開の時期を決めかねているように感じていました。

### ◇芦屋合唱協会

芦屋市には市内で活動する合唱団をまとめる芦屋合唱協会という組織があり、特徴は市内の合唱団ほとんどが加盟している点にあります。

土地柄高齢者のグループも多く、合唱団のサイズも様々。そのどこもが活動の再開のタイミングを推し量っていました。中には「合唱協会でOKを出してください！」という悲痛な叫びも…。



私は常々**“合唱はみんなでやるものだが、本来パーソナルなもの”**と思っています。個性の集まりがチームワークを産むとさえ思っています。

ですので、このコロナ禍にあっても、活動再開のタイミングはそれぞれの合唱団で考えるべき、と思っていました。

3月以降、合唱の関係でも新型コロナウイルスで悲しい出来事もあり、その時以来、まるで自粛警察のように、再開に向けて動こうとする人たちを誹謗中傷しようとする動きすら見受けられました。合唱を愛するみなさんが活動の再開に二の足を踏む気持ちもわからないではありませんでしたが、今年の2月まで私たちがどれだけ合唱を愛してきたか、そして合唱が生活に欠くことのできないものだったか、を思い出してほしいと思いました。

世の中には多くの専門家がいて、その方々の情報すらも一方を向いていないのも事実です。そして、医師すらもどうしたらこのウイルスを回避できるかがわからないでいます。世界中の

人たちがみんな走りながら目の前の問題を解いていっているような現在、自分の人生に欠くことのできない合唱を守るために、いまできる限りの対策を実施して一歩を踏み出そうとする方がいるなら、全力で応援したいと思っています。

そのために一番必要なことは、合唱団のメンバーが、家族が、そして合唱団を取り巻く社会が「合唱団の練習に参加しても安全だよ」と思ってもらうことだと考えました。

合唱団の構成メンバーも、家族も、練習場の環境もすべて違う合唱団が、一つのガイドラインなんてことは考えられないのです。

### ◇ガイドラインは自ら決める

合唱団のメンバー一人ひとりにとって、合唱の価値観(立ち位置)が異なるように、合唱団によってその存在価値を示すためのガイドラインは当然変わってくるでしょう。それをみんなで考えることは、みんなが“合唱”と“自分”の関係性を見つめ直すこととなります。(いかに自分にとって合唱が必要なものか気が付いてくれるといい)

新生活様式の中での合唱活動を考えるというのはそういうことなんでしょうと思っています。

6月20日に芦屋合唱協会加盟団体の代表者にお集まりいただいて、実施したセミナーは…

- ① 公民館の使用停止はどういう経緯で決定されたのか。またそのベースになるもの。(市によって、時期によって閉鎖、開館が違うことに対する答えとして)
- ② 公民館の開館が合唱活動再開の免罪符とはならないということ。
- ③ 最も大切なことは、みんなが**“合唱は安全と思ってもらえる準備をする”**
- ④ それは合唱団の置かれている状況によって変わってくる

- ⑤ 実際にマスクをして、フェイスガードをして歌ってみよう。そしてその状態を受け入れよう。歌うために！
- ⑥ その準備ができれば、勇気をもって練習を再開してほしいというものでした。

ガイドラインはできれば科学的な根拠に基づいて作っていただきたいし、世の中にゴマンと溢れている情報から、自分たちにとって都合のいいものを取り出して作るのでは意味がありません。また、新型コロナウイルスを完全に封じ込めようと思うなら「人々が合唱も、経済活動も一切やめて家に閉じこもること」だということも思い描いたうえで、自分たちができる精いっぱい対策を講じてほしいと思いました。

みなさんがセミナーをどのように捉え、ご自分の合唱活動をどのようにされるのか、それこそ、それはみんながそれぞれに考えることです。自分たちが歩く道は自分たちで決めるしかありません。

### ◇「明日からのメール」

合唱協会が答えをくれる、と思って参加されたみなさんには、むしろ大きな宿題を出してしまったような感じです。↑

<https://www.facebook.com/inishimaki/videos/3209526685773310/>

## コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト

クラシック音楽演奏会・音楽活動を安心して実施できる環境づくりを目指して、「クラシック音楽公演運営推進協議会」及び「一般社団法人日本管打・吹奏楽学会」は、6月22日ヤマハミュージックジャパン、作業環境の専門家、クラシック音楽に詳しい医療関係者と、感染リスクを抑えながら音楽活動を再開するためのプロジェクト・チームを結成しました。演奏会場全体のあらゆるリスクを洗い出し、それぞれに対策を講じる計画です。

8月下旬には提言案を公開予定です。楽器演奏や歌唱における飛沫の飛散について、クリーンルームを使って厳密に調べるといった本格的なもので、ゼロ・リスクではなく、感染リスクの低減と音楽性の追求や興行の成立との両立を狙っています。このプロジェクトは、N響の協力を得て進められます。クリーンルームの空調はラミネアフロー(層流)といわれる一定方向への流れ(通常は上方向から下方向へ)で設計されていますので、実際の演奏会場とはそれなりに環境条件が異なると思いますが、基本的なデータは得られるものと期待されます。

### クラシック音楽の演奏において

#### ソーシャル・ディスタンスは必要か？

音楽活動の再開にあたって、不確定なリスクに対して聴衆間や演奏者間に十分なソーシャル・ディスタンスをとろうとす↑

それだけではあまりに申し訳ないので、芦屋合唱協会では新型コロナウイルスが去った後に、みんなで歌ってもらえる歌を作りました。合唱協会の構成メンバーのある合唱団の代表者で作曲家、ピアニスト次郎丸智希さん作曲(有馬葉子さん作詞)の「明日からのメール」(↓下記 URL)がそれです。

6月20日のセミナーに間に合わせてくださいました。誰でも歌えるポップな感じの簡単な二部合唱です。この歌が早く街中で聞かれるようになればいいと思っています。

### 西牧 潤 プロフィール

甲南大学理学部応用物理学卒業。指揮を小林研一郎、斉田好男の両氏に師事。合唱団ボイスフィールド、宝塚少年少女合唱団、甲南大学グリークラブ、神戸ポートシンガーズ指揮者、オペラの指揮、オーケストラを伴う合唱作品の演奏、メサイア、第九やオペラなどの副指揮、合唱指揮など、合唱にとどまらない幅広い演奏活動を目指し、また、芦屋市・宝塚市を中心とした地域の音楽活動の振興にも力を注いでいる。

芦屋合唱協会会長。JCDA 日本合唱指揮者協会会員。クロワール、KG 合唱の会など。平成指揮者十人の会、21 世紀の合唱を考える会合唱人集団『音楽樹』同人。

る考え方がありますが、それでは演奏者間の意思疎通が困難になります。次の2つの疑問について実験を予定しています。

**疑問①クラシック音楽の演奏を聴く人の周囲で、前後左右隣接する席の位置と、前後左右1席離れた席の位置で、飛沫等の測定量に差はあるか？**

**疑問②楽器演奏者の周囲で、従来の距離で前後左右に隣接する奏者の位置と、ソーシャル・ディスタンスをとった奏者の位置で、飛沫等の測定量に差はあるか？**

ふつうの環境中に浮遊する埃の影響を排除するため、実験には大型のクリーンルームを使います。奏者にはN響からバイオリン、フルートなど10種以上の楽器3人ずつ、聴衆役にはクラシック音楽演奏会に慣れた人が参加。ポイントとなるのは、パーティクル・カウンターを用いて空中の微粒子を測定することです。(パーティクル・カウンター：粗大粒子用から微粒子用まで多くの機種があります。)

最大の狙いは、**従来とソーシャル・ディスタンスをとった場合で差がなければ、従来の距離で演奏会を行える根拠が得られる**という点です。飛沫が検出されない楽器では奏者間の距離を従来通りに縮めることが可能になる一方で、楽器によっては距離を縮めるために飛沫遮蔽物の設置についても提言するとしています。いずれにせよ壮大な実験です。期待しましょう。